中間発表会　分科会の記録　（３）年　抜粋

【授業者より】

●単元構想の工夫

・「誰に何を伝えたいか」を自分自身で決めることで意欲付けができ、「伝えたいことカード」を各自、常に手元に持たせることで自分の考えを明確にすることにつなげる手立てとした。

（例：児童会に。３年生に）（例：教室で給食の時に。ホールで使ってもらう）

・必ず使ってもらうという達成感を味わわせたい。

・６年生に１度見せ、「まだ足りない。」と言われたことで、自分の思ったことだけを書くのではなく、情報の必要性を感じ、進んで取材（インタビュー）することにつなげた。

・教科書の見本では絵文字を説明する文章となっているが、今回のモデルは、考えを絵文字に表し、なぜその絵文字にしたのかその理由を伝える文章になるように変更した。

●本時について

・インタビューで集めた情報を自分の考えの理由のどの部分につなげて入れるのかという点に重点をおいたが、「なぜそこに入れようと思ったのか。」という発問が弱かった。

【参観者より】

（１）目指す資質・能力を身に付けるための学習過程の工夫があったか。

・（学校の中で使ってもらいたい）というイメージが強くあったので、意欲を持って頑張ることができていた。

・インタビューや、６年生に見てもらうなど他学年との交流がよかった。
（活動させたいが、なかなかできないことが多い・・）

・「伝えたい理由」を個々が明確に持ち、目的意識を持って取り組めている。

・個人、全体、ペアを必要に応じて取り入れていた。　（もっとペアを見たかった。）

（２）児童は、目的意識・相手意識をもって学習していたか。

・「何のために」「だれに」という意識がよくできていた。

・「納得してもらえるものを作ろう。」「作りたい。」という意欲があった。

・児童の早く書きたい、伝えたいという思いが伝わった。

（３）言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿はあったか。

・大事な言葉が短く書かれていて、子供たちも意識しやすかった。

・集めた情報を「どこに」入れるとより伝わる文章になるのか考える姿があった。

▼主語・述語が違う児童は次の授業で児童同士で直す。

（４）児童が自分の考えを明確にするための教師の手立ては的確だったか。

・今日のポイントや既習を何度も振り返ることができていた。

・「つながっている。」と考えられる理由を言葉で視点を持って推敲できていた。

・今までの学習がしっかり入っていたので、考えをしっかり持ち自信をもって書けていた。

▼つながりを意識させる手立てとして、交流の際にも視点を示せたらよかった。

▼前と後で文章がよくなったのは経験があったからであるという所に気づくために、気づいている子を意図的に指名できるとよかった。

【助言者より】

●目指す資質・能力を身に付けるための学習過程の工夫

・必要感を持たせて（上級生に「分かりにくい」と言われて、どうすればいいか）情報を収集させた学習過程が工夫されていた。

・書く力をつけるための指導の在り方としてポイントが２つある。

① 子供が本気になる学習過程の工夫

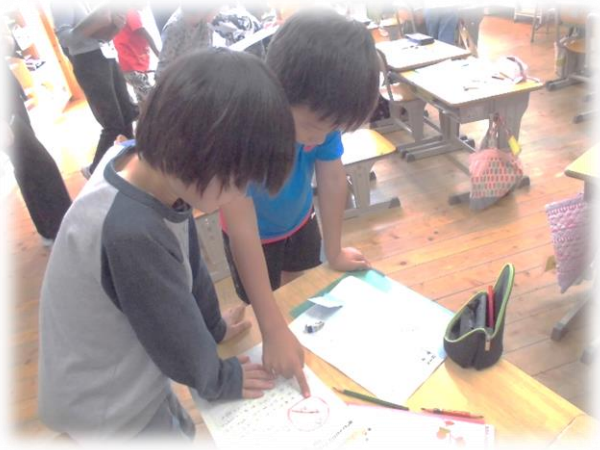
② 子供が自由に学習過程を組めること

本時のゴールさえ意識できれば、順番通りにいく必要はない。

（学習過程を行き来することで、実際の生活にも結び付く学びができる。）【自己調整力】

〈課題〉

・学習活動がめあてとずれてしまったのではないか。

（考えた絵文字の理由ではなく、自分の考えと情報を比べてしまっていた。）

・人に聞いたことをこの部分に入れることで（自分の思ったことだけでなく）、文章がよくなった、理由が伝わる文章になったということに気付ける手立てをこれからもしていくべき。